



社会福祉法人  
岩根福祉会  
久津間保育園  
2月1日発行

久津間保育園では、主として0歳児クラス～2歳児クラスには手作りおもちゃを用意するようにしています。発達著しい年齢では、既成のおもちゃでは間に合わないことがあります。夢中で遊んでいるおもちゃであってもすぐに飽きてしまうこともあります。子どもたちの運動機能の発達や旺盛な好奇心が原因のようです。ですから、その発達に合わせたおもちゃを手作りする必要があります。今月はおもちゃに関連して「0・1・2歳の保育環境を考える」(大阪芸術大学短期大学部瀧薫教授著)という記事を紹介いたします。 園長 平野弘和

〈発達過程に沿って、おもちゃを用意する〉

保育は、子どもの主体的な活動が中心です。そのためには、子どもが思わず手にとりたくなるような、興味を引くおもちゃがあること、そしてそのおもちゃが発達に適している、やさしすぎず難しすぎないことが大切です。そこで、今月号では、保育の現場でよく使われる定番の既製品のおもちゃと、そのおもちゃで遊ぶ前後で子どもが興味を持つようなおもちゃについて、実践例から考えてみたいと思います。

〈プラスチックで遊ぶ前に〉

1歳頃から3歳頃まで、長く遊べるおもちゃにプラスチックがあります。ドーナツ型の円盤を、木の棒にさして行くという簡単なものです。プラスチックは、五色の円盤がそれぞれ10個ずつありますので、50個全部を根気よく棒にさすのは、おおよそ2歳頃です。しかし、1歳頃の子どもたちもプラスチックの遊びが大好きです。そこで、全部できたという達成感も感じてほしいので、三色のものを作ってみました。これなら1歳半頃の集中力でも無理なく全部入れることができ、完成すると拍手して喜ぶ姿があります。この時期の発達は個人差が大きいので、さらに簡単なものを作ってみました。二指でつまみやすいように、大きな六角形にして、数も全部で9個と少なくしています。こちらは乳児クラスの子どもたちも遊べるおもちゃになりました。このように、遊びの要素は同じでも難易度を変えることで一人一人の発達に適した遊びとなります。「できた」という小さな喜びの積み重ねは、子どもがさらにまわりの環境に積極的にかかわろうとする意欲につながります。

〈プラスチックを発展させて〉

さて、こどもたちがプラスチックになれたころ、今度はプラスチックを発展させたおもちゃを作ってみました。これは、ボルトとナットになっていて、クルクル回しながら入れるので、手の動きがプラスチックよりも複雑になります。2歳の子どもは、指先を器用に使うに次々に六角形のピースをはめていきました。このように子どもの姿を見ながら、定番のおもちゃよりも、少し簡単なものと、少し難しいものを工夫することで、子どもが飽きずに遊べるとともに、丁寧な発達支援になります。



《2月の行事予定》

- |                             |                    |
|-----------------------------|--------------------|
| 1日(木)豆まき                    | 15日(木)避難訓練(消防署立会い) |
| 2日(金)サッカー協会による運動教室(3,4,5歳児) | 職員会議               |
| 7日(水)3歳児以上児組担任おもちゃ研修会       | 26日(月)クッキング(3歳児)   |
| 9日(金)3歳未満児組担任おもちゃ研修会        | 28日(水)クッキング(4歳児)   |

\*1日に延長保育料の集金袋を配布します。5日までにお持ちください。土曜日は集金致しません。また、お釣りのないようお願いします。

\*3月16日(土)は、ゆり組の卒園式です。ゆり組以外の方は、ご家庭での保育をお願いします。